



大原総合病院 手術室勤務

荒木 めぐみ (平成 25 年度卒業)

私は調剤薬局で医療事務の仕事をしていましたが、毎日会う患者さんに対し何かしてあげたいと思うようになり、また従妹が看護師をしていたこともきっかけで看護師を目指すようになりました。

社会人入学はクラスで私一人だけでしたが、久しぶりの学校生活はとても新鮮な気持ちでした。講義や実習、課題やテストも多く、長い間勉強から遠ざかっていた私は全く余裕が無く、苦しいこと大変なことも多くありました。しかし親身になって話をきいてくれる先生や、同じ志をもった仲間がいて協力しあい励ましながら乗り越えることができ、学校祭、球技大会、遠足等学校行事にも参加し年の差を感じずクラス一丸となって楽しく過ごすことが出来ました。

卒業後は希望の手術室に配属になり、手術を受ける患者さんの不安を少しでも取り除けるような声掛けを意識し、そして技量と知識を身につけるように日々努力をしています。

正直、仕事を退職しもう一度学生になることで生活スタイルが変わる不安と看護師になりたいという思いとの葛藤はありました。しかし看護師になり毎日忙しくも充実した日々を送っているとやりがいを感じあの時の決断は決して間違っていなかったと思うことができます。

新たなとびら



大原総合病院 手術室勤務

菅野 道裕 (平成 27 年度卒業)

私が看護師を目指し始めたのは大学 3 年のときです。当時、私はある大学の工学部に在籍しており、医療機器に関する研究室に所属していました。その研究室では日々医療機器の基礎となる部分の開発や改良が行われており、また学生の研究成果を医療機器の展覧会などで発表することがあったため医療機器メーカーの担当者や医師や看護師などの医療従事者と触れ合う機会が多々ありました。元々、大学卒業後は電子機器や医療機器などモノづくりの仕事に就きたいと思っていましたが、研究や医療従事者との触れ合いを通して医療機器を扱う立場に憧れをもち、また密かに人と接する仕事にも興味があったことから看護師を目指すことを決心しました。大学卒業後は大原看護専門学校を受験し、入学しました。私が大原看護専門学校を選んだ大きな理由として、本校が大原総合病院の附属であるため大原総合病院をはじめとした多くの関連施設で実習ができることに魅力を感じたからです。

学校生活は、入学して初めの 1 年間は講義を中心に身体の構造や看護の基礎となる部分を学んでいきます。2, 3 年次には講義のほかに時期によって病棟実習が組み込まれています。本校のカリキュラムは学年が上がるにつれて実習や国家試験の準備などで忙しくなっていますが、随所に遠足や球技大会、文化祭など楽しい行事やイベントも沢山組み込まれています。加えて、講義を教える先生方も個性的かつパワフルな方が多いため充実した日々を過ごすことができました。

現在、救急医療に携わるため大原総合病院の手術室に勤務しています。新人看護師であるため、わからないことや不安も多々ありますが先輩看護師のご指導のもと 1 人でも多くの命を救えるような看護師になりたいという目標に向かって日々精進しています。



小泉 杏奈

私は、短期大学卒業後、看護師を志し入学を決意しました。学校生活では少人数のクラスの中に現役生はもちろん、社会人経験のある人など様々な背景をもったクラスメイトがいて、いろんな面で刺激しあえる環境があります。

講義、テスト、演習、臨地実習など忙しい毎日ですが、クラスメイトと一緒に協力し、励まし合い、球技大会や学祭などの学校行事はみんなで楽しみながら充実した毎日を過ごしています。

看護の勉強は学ぶことが多いため、日々の授業をしっかりと聞いたり、復習を行ったり、わからないことは友達や先生に聞くようにしています。

毎日忙しく大変ですが、同じ目標をもつ仲間とともにこれからも頑張っていきたいと思います。



灰玉平 昂

私は、特別養護老人ホームで介護士として3年間働いていました。その中で、看護師になりたいと考えるようになりました。その一番の理由は、患者の体に何が起きているかをわかった上で関わっていくことで患者と深く関わりより添えると思ったからです。

大原看護専門学校を選んだのは、教えられるのではなく自ら学ぶ教育方針に自由さもあり責任もあると感じたからです。また、学費が安いことや実習施設が充実していることも選んだ理由のひとつです。

学校生活は日々めまぐるしく終えていきますが、看護師になりたいという志を持ち、モチベーションを高く保つことが大切だと感じます。大変な部分もありますが、仲間と支えあうことで、楽しい学校生活を送れると思います。